

<H6-3-A : 問題>

次の文は水準測量について述べたものである。間違っているものはどれか。

1. レベル及び標尺は、点検、調整されたものを使用する。
2. 新設点の観測は、永久標識の埋設後ただちに行う。
3. 固定点は、杭またはなるべく堅固な構造物等とする。
4. 手簿に記入した読定値は訂正してはならない。
5. 観測が終了したときは、速やかに点検計算を行い、観測値の良否を点検する。

<H6-3-B : 問題>

次の文は水準測量において、視準線の調整が十分でないために生じる誤差を消去するための方法について述べたものである。正しいものはどれか。

1. レベルの気泡を中心に導いてから観測する。
2. レベルは水準点から次の水準点までの間に偶数回整置する。
3. レベルの望遠鏡と三脚の向きを特定の標尺に対向させて整置する。
4. レベルと後視標尺及び前視標尺の距離を等しくする。
5. レベルと標尺間の距離を長くしてレベルの整置回数を減らす。

<H6-3-C : 問題>

水準点 A、B 間に固定点 (1)、(2) を設置して往復の水準測量を行い、図 3-1 の結果を得た。図 3-1 において、上段の数値は、水準点 A から水準点 B までの往観測における各区間の観測高低差を示し、下段の数値は水準点 A から水準点 B までの復観測における各区間の観測高低差を示す。往復観測値の較差の制限を $5\text{mm}\sqrt{S}$ (S は距離、km 単位) とするとき、観測結果に対する最も適切な処置はどれか。次の中から選べ。ただし、各区間の距離はすべて 490m とする。

	−3.613		+2.778		+1.241	
A	—————	(1)	—————	(2)	—————	B
	+3.624		−2.788		−1.240	

1. 水準点 A から固定点 (1) の区間の再測を行う。
2. 水準点 A から固定点 (2) の区間の再測を行う。
3. 水準点 A から水準点 B の区間の再測を行う。
4. 固定点 (1) から固定点 (2) の区間の再測を行う。
5. 再測を行わない。

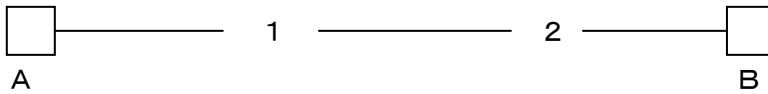
<H6-3-D : 問題>

図 3-2 に示すように、水準点 1, 2 を新設するため、水準点 A, B 間で水準測量を行い、表 3-1 の結果を得た。水準点 2 の標高はいくらか。次の中から選べ。ただし水準点 A の標高を 92.114m、水準点 B の標高を 83.376m とする。

表 3-1

路 線	距 離	観 測 高 低 差
A → 1	2.0 k m	+4.845m
1 → 2	2.0 k m	-6.223m
2 → B	2.0 k m	-7.384m

図 3-2



1. 90.736m
2. 90.744m
3. 90.752m
4. 90.760m
5. 90.768m